

おうみ少年少女合唱団

入団式 新入団員6名!

地域の文化活動を支援することを目的に結成した「おうみ少年少女合唱団」の2016年度の入団式が、4月9日(土)大津市の逢坂センターにて行われ、新年度の活動がスタートしました。

今年は新しく6名の仲間が加わり、本団29名、リトルクラス6名の総勢35名となりました。

「おうみ少年少女合唱団」では単に歌うだけでなく音楽を通して自己表現ができるように、また、異年齢がチームワークよく、良い音楽を作り出していく子どもたちを指導しています。入団式の最後には、先輩からの新入団生への温かい歓迎の言葉で和やかな雰囲気での終わりました。

合唱団では、大津市合唱フェスティバル、滋賀県合唱祭への参加に始まり、老人ホームへの慰問演奏、ミニコンサート、毎年12月には演奏会を開催します。

みんな一生懸命練習し、協力してひとつの事を達成する大切さなどを学びながら、楽しく活動していきます。



老人ホームへ訪問演奏

3月28日(月)



午前中は大津市の特別養護老人ホーム「桐生園」、お昼休みにあわせて、県立長寿社会福祉センターでのロビーコンサート、午後からも特別養護老人ホーム「カーサ月の輪」と3ヶ所で演奏させていただきました。

第35回合唱フェスティバルおおつ出演

4月10日(日)



大津市民会館大ホールにて開催、4月からの新入団員を除く本団が出演しました。また、6月には滋賀県合唱連盟主催の「第61回滋賀県合唱祭」にも出演します。

特集 参議院議員 林久美子

若年層の雇用推進について



異次元の金融緩和と大胆な財政出動を掲げたアベノミクスが始まってから39カ月。昨年10～12月期の国内総生産(GDP)改定値によると、成長率は年率換算で1.1パーセント減。多くのお金が発行されているはずなのに、個人消費は伸び悩み、財布の紐は固く、景気回復にはほど遠い状態です。

特に若い皆さんの消費は増えていません。家計を取り巻く不確実性は高まっており、社会保障制度への不信や、「雇用の流動性」という大義名分のもとに進められる労働法制の改悪への不安など、将来への安心や道筋が見通せないことが原因であることに疑いの余地はありません。

初めての就職が非正規だった若者は4割。15歳から34歳の若年層の労働者のうち、正社員は66パーセント、非正規社員は34パーセントで、年々非正規の割合が増えています。若年層の非正規の方の平均年収は180万

円で、正規社員の230万円に比べると50万円も低くなっています。就労形態別の配偶者のいる割合(男性)を見てみると、30歳から40歳の正規社員が57パーセントであるのに対し、非正規の方は24パーセントに留まっています。つまり、現政権のもとで増え続ける非正規の方々は、不安定な雇用環境で低賃金、結婚できる割合も低くなっているということです。

これでは日本に未来はありません。若い方が安定した雇用環境で継続的に就労し、将来設計を立てながら、人生を歩む——。そんな「普通の幸せ」を、もう一度取り戻したいと思います。働く仲間の皆様とともに全力を尽くします。



連合滋賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2016年4月26日

連合滋賀 第267号
大津市松本2丁目10-6
電話077-523-0500
発行・山田 清
編集・竹内 真也
(定価 1部61円)
印刷 ユメディア株式会社

「雇用推進行労使会議チャレンジしが」で雇用推進を! 行労使4者による共同宣言・イクボス推進共同宣言を採択!

「雇用推進行労使会議チャレンジしが」を3月29日(火)、滋賀県公館ゲートルームにおいて開催し、滋賀県、滋賀労働局、連合滋賀、(一社)滋賀経済産業協会の行労使4者によって、「滋賀県雇用推進プラン」に掲げる重点施策について意見交換を行いました。

雇用推進行労使会議では、2015年度に策定した「チャレンジしが滋賀県雇用推進プラン」の7つの柱のうち、経済・地域の活性化に向けて女性の潜在的な能力が発揮される取り組みを加速化するための「女性の活躍推進」および時間外労働の削減や休暇取得促進を図る取り組みとして「働き方改革の推進」の2つを最重要課題として取り組んできました。

2016年度はこの2つの施策に加えて、「若年者の自立に向けた就業・定着支援と正規雇用の拡大」に取り組むこととし、『雇用の推進と働きやすい滋賀の実現をめざしての共同宣言』と『イクボス推進共同宣言』を4者により採択し



ました。

連合滋賀は政策・制度実現の取り組みとして、すべての労働者を対象にした生活改善・格差是正の運動を強く進めるとともに、時間外労働の削減や育児休業の取得の促進、県内産業を支える若年者の働きやすい環境づくりを進めていきます。

共同宣言

～雇用の推進と働きやすい滋賀の実現をめざして～

少子高齢化が本格化し、中小企業を中心に人材不足や技術・技能の継承問題が深刻化、また、未就職のまま卒業した者や正社員になれなかったフリーターやニート状態にある若年者も依然多く存在し、非正規雇用労働者も全体として増加傾向にある現状があります。

このため、「女性活躍と働き方改革の推進」に加え、「若年者の就業支援の推進」について、共通認識を持ち、一致協力して雇用の推進と働きやすい滋賀の実現をめざします。

(1) 女性活躍と働き方改革の推進

女性が多様なニーズに応じた働き方で、様々な分野で活躍し、能力が最大限発揮されるよう取組を加速し、女性の活躍による経済・地域の活性化を図ります。また、時間外労働の削減や休暇取得促進を図るとともに、働く人々の生活スタイルや家庭責任、地域貢献等に対応できる多様な働き方・効率的な働き方を広めていきます。

(2) 若年者の就業支援の推進

働きやすい職場環境づくりに取り組む中小企業を支援し、産業を支える若年者の県内就業・職場定着を促進します。また、中小企業の魅力の発信、企業と若年人材の相互理解の促進等に努め、人材確保の取組を進めます。

さらに、正社員を希望する若い世代や正社員として働く機会がなく、非正規雇用労働者として働く若年労働者が、その意欲と能力に応じて正規雇用労働者に転換し、安定した就職が実現できるようキャリアアップ助成金の活用などによる積極的な支援を行います。

イクボス推進共同宣言

滋賀県、滋賀労働局、連合滋賀、(一社)滋賀経済産業協会は「女性の活躍」「働き方改革」および「若年層の就業」を一層進めるため、イクボスの取り組みを推進します。

私たちは、時間外労働の削減や育児休業の取組促進、多様な働き方・効率的な働き方などを通じて、部下の仕事と家庭の両立を応援しながら、自らも仕事と私生活を楽しむ「イクボス」となります。

私たちは県内にイクボスを増やすため、企業・労働組合・団体・行政への働きかけを積極的に行います。

これらのことを通じ、一致協力して、雇用の推進と働きやすい滋賀の実現をめざします。

滋賀県雇用推進行労使会議 チャレンジしが

滋賀県 / 滋賀労働局 / 連合滋賀 / (一社) 滋賀経済産業協会



左から坂口康一経産協会長、三日月大造県知事、山田清連合滋賀会長、辻知之労働局長

連合滋賀臨時大会を開催し、新体制を確認！

4月8日(金)、ロイヤルオークホテルにて連合滋賀臨時大会を開催しました。

この臨時大会において、「役員の補充」に関する確認を行い、10年間にわたり、連合滋賀事務局長を務められた松元光彦氏(電機連合)が退任し、後任として自治労出身の上田薫氏が事務局長に就任しました。

また、「顧問の委嘱」についても提案がなされ、松元前事務局長を連合滋賀顧問として就任いただくことを確認しました。

最後は、連合滋賀山田清会長のガンパロー三唱で締めくくり、引き続き「働く者を軸とした安心社会の実現」に向け、一致団結して取り組む決意を新たにしました。



退任の挨拶

前事務局長 松元 光彦
(電機連合)

過日開催されました連合滋賀臨時大会におきまして事務局長を退任いたしました。2005年11月からの10年半にわたりましてご支援を賜り、日々感謝に堪えないところであります。

振り返りますと後悔の念に駆られることも少なくありません。一方で運動にご賛同いただき、協力を惜しまれなかった多くの仲間の皆さんとの思い出を懐かしむこともできます。私にとって貴重で得難い体験であり、深く心に刻まれています。長きにわたり不肖の身の私を助け、ときには温かく見守っていただきましたことにあらためて感謝申し上げます。連合は結成から四半世紀の間、公正で持続可能な社会に向けたパラダイム転換を訴えるとともに、めざすべき社会像を掲げて運動が展開されてきました。

特にこの10年余りは新自由主義や金融資本主義が世界を席卷し、むきだしの競争が社会の不安と不信、地域コミュニティの危機をもたらし、それまでも増して運動の社会性を追求しなければならなかった時期であったと思っています。労働組合、そして連合は、職場や社会の不条理とともに立ち向かい、すべての働く者のための運動を推進する者の集団です。

その使命と役割を改めて認識され、新たな体制のもとで、どのような課題・難問にもたじろがず、これを持ち切って存在感を高め、広く社会、地域に認められる組織として活動されますこと、そして連合滋賀の発展と関係者の皆様のご健勝ご多幸を祈念し、退任の挨拶といたします。



新任の挨拶

新事務局長 上田 薫
(自治労)

連合滋賀臨時大会において、松元さんの後任として、事務局長に選任いただきました上田と申します。

振り返りますと労働組合活動に携わって30年になりました。この間、産別の労戦問題による分裂、組織課題等を抱えるなかで、先輩諸氏の先駆的努力の結果、「滋賀労働四団体共闘」で培われ、1990年に連合滋賀が誕生しました。当時は、「力と政策」を充実させ、「平和 幸せ 道ひらく」をスローガンに21世紀に向けた労働運動を築いていこうとする方針が思い出されます。

2011年3月の東日本大震災の時に専従の副事務局長として5年経った今、はからずも、4月14日、16日に発生した大地震が熊本・大分両県をはじめ九州各地に甚大な被害を及ぼしており、私たちは、再び震災を経験することになりました。被災地、被災者へ最大限の支援を展開していかななくてはなりません。

昨年の連合滋賀第14回定期大会において、『すべての働く者を「力と政策」の輪に』をテーマに運動を展開することが決定されました。26年前の発足当時と同様、本年は「力と政策」を国政選挙をはじめとする政治活動や民進党の綱領にもある「生活者」「納税者」「消費者」「働く者」の立場に立った政策・制度の改革に取り組むとともに、震災による被災地はもとより、地域への社会的役割を果たしていかななくてはなりません。

皆様の、絶大なご指導とご協力をよろしく願っています。

「地方創生」をテーマに石川県の金沢市・羽咋市を視察 連合滋賀議員団会議「研修・交流会」



連合滋賀議員団会議は、議員としての政策能力を高めるべく、4月13日から2日間にかけ、24名が研修・交流会に参加しました。

1日目は、石川県金沢市を訪問し、金沢市役所にて「北陸新幹線開通に伴う効果、及び今後の戦略について」と題し、米原ルートの話など滋賀県でも注目される北陸新幹線の金沢市での経済効果や今後の課題などについてお聞きしました。

また、滋賀県の新生美術館の設計者として選定されているSANA事務所が手掛けた金沢21世紀美術館を視察しました。



2日目は、石川県羽咋市の神子原地区を訪問し、昨年TBSテレビにて放送されていた「ナポレオンの村」の原作「ローマ法王に米を食べさせた男」の著者で、スーパー公務員と呼ばれた元羽咋市役所職員の高野誠鮮氏にお越しいただき、限界集落であった神子原地区を年間予算60万円、わずか4年で立ち直らせた経緯から、その行動力の裏にある高野さんの理念・哲学・考え方についてお話いただくとともに、意見交換会を実施し、各議員の地元での活動を踏まえた様々な質問にお答えいただきました。

「奨学金制度に関する要請書」を滋賀県に提出

「奨学金制度に関する要請書」を3月29日(火)、滋賀県知事宛てに提出しました。日本では、下がり続ける保護者の賃金収入と、相反して上がり続ける大学の学費により学生は奨学金を借りなければ大学に通うことが困難になっています。また、大学卒業後には3人に1人の学生が非正規雇用となっており、奨学金を借りた8人に1人が返済の滞りや猶予の状態にあるとされています。

こうした実態は、学ぶ意欲と能力をもった貧困世帯の子どものみならず、高等教育を受けることにより相対的に高い職業能力を身につけたとしても、貧困から脱することができない状況を生む可能性を示唆しています。

連合滋賀では、学生が奨学金返済により生活困窮に陥ることがないよう、対象者への制度の周知ならびに、無利子奨学金や給付型奨学金の導入など、奨学金制度の充実・改善に取り組んでまいらうよう、滋賀県に要請いたしました。



第24回参院選に向け 選挙管理委員会へ要請行動

今夏に予定されている第24回参議院議員選挙に向けて、滋賀県選挙管理委員会へ「投票促進に関する要請書」を4月18日(月)に提出しました。

期日前投票の周知活動、投票所の増設、投票所に向きやすい雰囲気作りなど多岐にわたる意見交換を行いました。

特に、公職選挙法の改正に伴う選挙権年齢の18歳以上への引き下げに対して周知活動の徹底はもとより、若年層の投票促進策の推進について強く要望しました。

滋賀県選挙管理委員会をはじめ、様々な部門と連携を取りながら連合滋賀は、選挙への関心を高めると共に投票率向上に向けて取り組んでいきます。



アジア・アフリカ支援米田植えボランティア!

日時: 2016年5月14日(土) 13時~雨天中止(小雨決行)
場所: 大津市仰木5丁目大倉5603(JRおこた温泉駅から車で15分)

連合滋賀と「食とみどり・水を守る滋賀県民会議」では減反田を利用し、飢餓で苦しむアフリカの人々へお米を送る運動をしています。

参加者募集! くわしくは連合滋賀のホームページへ!

facebookも公開中!

連合滋賀 検索